



社団法人 日本助産師会 宮城県支部だより

第16号

平成 19 年 6 月吉日発行
発行 社団法人日本助産師会宮城県支部
〒981-0911
宮城県仙台市青葉区台原 5-12-14

目次

1. 新支部長あいさつ 新田みつ子
2. 新役員紹介
3. 6年をふり返って 新田双葉
4. 支部総会報告
 - (1) 平成 18 年度決算報告
 - (2) 平成 19 年度予算
 - (3) 平成 19 年度事業計画
- (4) 審議事項
 - 名簿公開について
 - 会則の改正について
 - みやぎ開業助産師
ネットワークについて
 - 会費の値上げについて
5. 産婆時代の助産師たち
故野窪光子氏をしのんで
6. こんにちは 助産院さん
- 出張助産師 高津真理子
7. お知らせ
8. 編集後記



1. 新支部長あいさつ 新田みつ子

新緑の候、4月22日（土）の総会で推薦され支部長に就任いたしました。
歴史ある日本助産師会の宮城県支部長として最善を尽くしてまいります。
社団法人日本助産師会創立 80 周年の総会に出席し、先輩助産師のすばらしさをあらためて痛感し、ますます助産師であることを誇りに思いました。
妊産褥婦の皆様には産科医不足による産科医療の集約化により混乱を引き起こしております。いま、助産師に期待される社会的役割は多大であります。助産所部会・保健指導部会・勤務助産師部会の交流を密にし、助産師一人ひとり専門職業人として資質向上に一層の努力をし、社会に貢献していきましょう。
会員皆様のご協力をお願いいたします。

経歴

昭和 53 年	3 月	国立仙台病院看護助産学校助産学科卒業	
昭和 53 年	4 月	東北労災病院 勤務	
昭和 56 年	6 月	東北労災看護専門学校 専任教員	
平成 5 年	4 月	東北労災病院 部長	現在に至る

2. 平成 19 年度新役員紹介

支部長 新田みつ子

所 属 東北労災病院
住 所 仙台市青葉区台原 5-12-14
連絡先電話 022-272-6578

挨拶

自立した助産師像を宮城から発信できるよう皆様のお力をお借りし、邁進したいと思います。ご支援のほどよろしくお願い致します。

副支部長 石川初枝

住 所 栗原郡一迫町字三嶋 73-1
連絡先電話 0228-52-4307

挨拶

引き続き、福祉部長をさせていただきます。

みやぎ子育て・女性健康支援センター代表も兼任です。新支部長を支えながら、助産師会を盛り立ててまいりたいと思います。よろしく申し上げます。

副支部長 伊藤祝子

所 属 柴田地区

挨拶

次回のご挨拶とさせていただきます。

書記 田村雪子

所 属 東北文化専門学校講師
住 所 仙台市宮城野区宮城野 3-5 5-505
連絡先電話 090-2982-7235

挨拶

引き続き書記をさせて頂くことになりました。力不足でございますが、皆さんが気持ちよく、助産師会の会員でいて頂けるよう、書類整理をさせていただきます。お気づきのことなどお教え下さい。機関紙も担当させて頂いております。よろしくお願い致します。

会計 山岸和子

住 所 仙台市太白区

挨拶

会計を担当させていただくことになりました。

皆様からお預かりする会費が、宮城県支部の活動のために、有効に活用できればと思っています。皆様のご協力をお願い致します。

教育委員 後藤美子

挨拶

次回にご挨拶させていただきます。

勤務部長 松田美由紀

挨拶

次回にご挨拶させていただきます。

保健指導部長 加藤由美

挨拶

仙台市妊産婦新生児訪問指導員として 8 年目、育児ヘルプ家庭訪問事業専門指導員として 3 年目を迎えました。まだまだ勉強が必要であると実感する毎日です。宮城県委託助産師研修会等で、皆さんと交流を深め、知識の向上と、互いの情報交換が出来ればよいのではと考えています、

先輩方からたくさんのアドバイスを受けながら、一生懸命やっていきたいと思っています。



開業部長 加藤道子

住 所 大崎市古川大幡字原田 14-1
連絡先電話 090-2982-7235

挨拶

開業届けを出して5年、お産を取り扱うようになって1年の若輩ものです。まだまだわからない事だらけですが頑張りま〜す。

安全対策検討委員 伊藤朋子

所 属 とも子助産院
住 所 仙台市泉区野村字野村 95-6
連絡先電話 022-772-5960

挨拶

お産待機で、身動きがとれないことが多いのですが、皆さんと力を合わせて、助産師会を盛り立てていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

災害対策検討委員 伊藤範子

挨拶

本部の災害対策推進事業として H18 年度は8県に災害対策検討委員会が設置されました。今年度は、宮城県支部に災害対策検討委員会新設を要請され、私が担当することとなりました。今年度の委員会活動方法は、事業内容は本部の支持を受け、それを宮城県支部役員の方と検討し皆様の協力の元で確立できるよう努力していきたいと考えておりますのでよろしくをお願いします。



H19 支部総会にて

会計監査 生田目サツ子

所 属 名取市地区
連絡先住所 名取市名取が丘 2-11-7
連絡先電話 (自宅)022-384-1140

挨拶

宮城県支部の皆様には大変お世話に相成っております。ありがとうございます。皆様には、新年度に入りご多忙の日々をお過ごしのことと思います。私も名取市の新生児訪問に係わっております。名取は、今年もエジンバラ産後うつ予防の取り組みに力をいれることになりました。少子化時代にあって問題も多く、1人でも多くのお母さん方のお力になれるよう努力して参る所存です。また、子供たちに事故がないようお祈りし、ご挨拶と致します。

会計監査 後藤あき子

所 属 東北大学病院
連絡先住所 仙台市青葉区木町 8-25
連絡先電話 (自宅)022-274-4898

挨拶

日本助産師会宮城県支部の教育委員として、以前お世話になりました。野窪先生始め諸先生方に大変感謝しております。私は、大学病院に勤務して30年経ちました。少し時間を作れるようになり、助産師仲間として、お役に立つことがあればと思っております。産科医不足の中、今こそ助産師が立ち上がって、技術・知識・人間愛をもって、助産所開業・産褥入院・助産師外来・院内助産というものが出来るよう、皆さんと共に考えていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。

顧問 新田双葉

所 属 汐見台クリニック
連絡先住所 宮城郡七ヶ浜町汐見台南 1-1-5
連絡先電話 (自宅)022-357-6562

挨拶

次のページをご覧ください。



3. 6年間の感謝をこめて

社団法人日本助産師会前宮城県支部長 新田双葉

社団法人日本助産師会前宮城県支部長としての6年間の任期満了を無事迎えることが出来ました。諸々のご協力本当に有難うございました。

前任の野窪氏の突然の訃報のため、引継ぎがないままでお受けしました。どのように運営していけばよいのか、まず役員会で『会員の声を吸い上げて、検討し実行に移す』ということの基本にして参りました。

助産師を取り巻く社会環境はここ数年に、産科小児科医師不足・集約化・開業助産師の嘱託医の確保・嘱託医療機関の確保等難しい問題が山積しています。分娩環境を整えて妊産婦さんに喜んで頂けるように、新支部長新田みつ子さんに期待申し上げます。

会員の皆様には引き続きのご支援をよろしくお願い致します。

以上感謝をこめて。

平成19年度理事体制

理事 (仙台地区)	青木喜美代
理事 (泉地区)	小原京子
理事(名取・岩沼地区)	大友れい
理事(塩釜多賀城地区)	笠松愛子
理事 (石巻地区)	中濱秀子
理事 (柴田地区)	伊藤祝子
理事 (大崎地区)	高橋あや子
理事 (白石地区)	佐藤貞子
理事 (栗原地区)	石川初枝



新田双葉前支部長

宮城県委託助産師研修会予定

- 第1回 平成19年 8月5日(日) エルソーラ仙台
乳児期の保健指導 母乳育児と離乳食・ラクテーションコンサルタント・
変化する母子保健行政等
- 第2回 平成19年12月5日(日) エルソーラ仙台
超音波の基礎・乳幼児の蘇生、救急処置から まで

1. 支部総会報告

(1) 平成18年度決算報告

平成18年度 決算報告書(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

収入の部

科目	予算額(a)	決算額(b)	差異(b-a)	
支部会費収入	540,000	589,500	49,500	4500円×131人分
宮城県委託収入	124,530	111,930	△ 12,600	
講習会参加費収入	50,000	73,450	23,450	
胎盤収入	180,000	143,155	△ 36,845	
雑収入	2,000	247,899	245,899	ローブリックネットメンバー・寄付(斎藤ついで氏10万円・新田みつ子氏3万円・石川初枝氏3万円・ほか)
今期収入小計	896,530	1,165,934	269,404	
前期繰越額	1,499,640	1,499,640	0	
収入合計[A]	2,396,170	2,665,574	269,404	

支出の部

科目	予算額(a)	決算額(b)	差異(b-a)	
支部総会開催費	60,000	22,532	△ 37,468	会費費・講師謝礼
看護の広場	50,000	37,669	△ 12,331	借り手当分
研修会開催費	170,000	215,501	45,501	県委託講習会(会場費・講師謝礼・資料作成代)
全国総会関連費	220,000	248,160	28,160	鳥取への派遣費7万円×3人分、 総会負担金1万円(ほか)
会議費	200,000	206,437	6,437	役員会日常・交通費2000円/回・会議費・庶務会
会員・会費管理費	10,000	1,850	△ 8,150	本部への返込手数料・会費管理に関する通信費
事務運営費	30,000	30,000	0	事務用コピー代その他・事務用運営費
通信費	150,000	139,228	△ 10,772	電話費(委託講習会案内・総会案内・会議案内) 役員電話費等
機関紙発行費	70,000	46,063	△ 23,937	年3回発行
支援センター事業費	200,000	200,000	0	
関連団体負担金	40,000	13,000	△ 27,000	各種女性団体連絡協議会・他教育推進協議会・東北ブロック講習会負担金
慶弔費	20,000	0	△ 20,000	
雑費	50,000	1,788	△ 48,212	事務用品・他
予備費	26,170	100,110	73,940	東北北海道ブロック研修補助・関東部事業費・保健指導部会事業費・ほか
支出合計[B]	1,296,170	1,260,338	△ 35,832	

決算

収入合計[A]	支出合計[B]	差異[A-B]	—
2,665,574	1,260,338	1,405,236	来年度繰越[C]

現金預金残	1,914,938
前払費用分 加算	14,700
未収入金分 加算	65,100
会費前受分 差引き	589,500
[C]	1,405,238

(2) 平成 19 年度予算

収入

繰越金 1,405,236 円

	科目	平成 19 年度 予算額	前年度 決算額	比較	適用
1	会費	589,500	589,500		4,500 円 × 131 人
2	宮城県委託事業	110,000	111,930		
3	研修会資料代	50,000	73,450		
4	胎盤事業	120,000	143,155		
5	雑収入	9,630	247,899		
		897,130	1,165,934		

支出

	科目	平成 19 年度 予算額	前年度 予算額	比較	内容
1	全国総会関連費	140,000	220,000	-80,000	支部長、代議員 5 万円 × 2=10 万円上限 総会支部参加費 10,000 円 3 部門別負担金 1 万円 × 3 人分
2	支部総会開催費	40,000	60,000	-20,000	講師謝金 会場費 講師役員弁当(会議費より)
3	東北ブロック研修会参加費	10,000	0	10,000	支部長 10,000 円負担 他は私費
4	研修会開催費	130,000	170,000	-40,000	県委託研修会 2 回講師謝金 会場費 0
5	会議費	146,400	200,000	-53,600	役員会・理事会会場費 交通費 0 交通費は仙台市内 1,000 円上限 2,000 円 0 18,300 円 × 8 回=146,400 0 開業部会議費 20,000 円 0 保健指導部会議費 20,000 円
6	会員管理費	5,000	10,000	-5,000	
7	事務費	30,000	30,000	0	総会・研修会・役員会等事務費
8	看護の日参加費	4,500	50,000	-45,500	弁当代 係り日当 2,000 円(役員会としての交通費)
9	通信費	95,000	150,000	-55,000	総会案内 会員証 県委託研修会案内送付 2 回 0 機関紙 3 回 役員会案内 入会届け等 0 役員通信費は支部長 20,000 円
10	機関紙発行費	40,000	70,000	-30,000	紙 インク代 封書代(購入して印刷する)
11	支援センター事業費	180,000	200,000	-20,000	
12	関連団体負担金	30,000	40,000	-10,000	各女連 性教育協議会
13	慶弔費	20,000	20,000	0	
14	雑費	60	50,000	-49,940	
15	予備費	26,170	26,170	0	
	合計	897,130	1,296,170	6 -399,040	

(3) 審議事項

会則の改正について

平成 18 年度 1 月 21 日理事会より
本部の会則改正に伴い、支部の改正が必要
本部の会則に沿った会則が必要である
現状の支部会則の要改正点
役員・理事の定義があいまい
教育委員の明文化
安全対策検討委員の明文化
災害対策検討委員の明文化
地区割りは妥当か
みやぎ開業助産師ネットワーク(参照)の位置づけを明文化

理事会での決定 平成 19 年度に会則検討委員を立ち上げて、たたき台を作成し、役員会で検討し、平成 20 年度の支部総会にて協議したい

役員案 本部会則を役員が周知していないことを考え、まず役員会で検討したい。次年度支部総会で承認を得たい。

承認結果 上記役員会案にて承認を受ける
名簿公開について

名簿公開について

多賀城・塩釜地区理事提案
提案理由・会員の親睦と情報交換のため
支部総会に向けて、アンケート調査を行い、支部総会に提出するし、協議することになる
その結果を踏まえて、役員会で協議することになる

アンケート結果の報告 回収率 29名 22, 1% (高津真理子)

日本助産師会宮城県支部名簿公開に関して、あなたはどのようにお考えですか。
以下の項目に をつけ、上記に FAX または、郵送にてご返送下さい

- 1、現状のままでよい (11名)
- 2、各会員自宅住所・勤務先住所・連絡先を含め、公開した方がよい(5名)
- 3、お名前だけなら、公開してよい (10名)
4. その他() (3名)

質疑応答

- ・ 地区で交流会をしようと思うが、連絡がとれない
- ・ ときどき公開したほうがよい
- ・ だれが入会しているかわからず入会を勧められない

執行部から

- ・ センターの住所録から家庭訪問まで及び、ご家族に迷惑をかけた件、男性助産師導入をめぐる問題時の名簿流出事件等かんがみ慎重な対応が必要であろう
- ・ ただ、自分がどの専門部に入会しているか不明の方もいらっしゃる。名前・地区の公表をし、自己申告してもらう必要はあると考える

- ・ の全体としての組織図とともに宮城県全体として考える必要がある

決 定 6月の機関紙で一部公開することを周知し、11月発行の機関紙にて公開する
8月頃本部から、再度名簿がくるので、それと照合する

公開の内容範囲			
会員番号	名前	地区	3部門別

名簿の公開を受けたい人は、支部長に公開の事由を書類にて申告し、その上で閲覧とする。コピー禁。

みやぎ開業助産師ネットワークについて

みやぎ開業助産師ネットワークの新設について

- ・ 会員は、以下の本部の三部門別に沿って分ける
- ・ 開業部は、お産を扱っている助産師とそこで働く会員である
- ・ 乳房ケアで開業している会員は、保健指導部である

今後も活動を続けたい。開業部会の呼称はこの活動に合わない。

『みやぎ開業助産師ネットワーク』として、活動を続けたい

決 定 承認される

会費の値上げについて

提案者 新田双葉前支部長

提案事由 事業が多くなったが会費を上げずに6年間やってきた。しかし、ご承知のように役員の負担が大きくなった。今年度の予算編成も大分苦心し、役員の負担が大きい。次年度は500円値上げし、支部会費5000円にした方がいいと考えます

決 定 承認を受ける

5. 産婆時代の助産師たち

故野窪光子先生をしのんで

東北文化専門学校保育福祉科小児保健講師
助産院(出張専門)マミーズルーム田村(元)
仙台市新生児訪問指導員(元)
田村 雪子

1. はじめに

現在私は、東北文化専門学校の非常勤講師として小児保健を担当している。また、(社)日本助産師会宮城県支部書記、みやぎ子育て・女性健康支援センター事務局長をさせて頂き、7年目である。

今回故前々宮城県支部長 野窪光子先生から教えて頂いた事と、自分の出産体験周辺、そして仙台市新生児訪問指導員(元)、助産院(出張専門)マミーズルーム田村(元)として関わった出産前後、また助産師としての関わりをまとめてみた。

病院勤務、開業助産師、保健指導に関わる皆様に、何らかのお役に立てればと願っている。

2. 私の出産体験

自分が体験したお産の映像はいつまでも目に焼きついているものである。20年前・17年前のことである。

第1子は仙台市内の自分が働いていた中規模の病院でお世話になった。微弱陣痛で人工促進剤にお世話になった。息子は無事生まれ、私も何事もなく産後を迎えるはずであった。しかし、授乳のたびにつらく、ふとんの中で涙を押し殺す日が続いた。当時は 式の乳房管理が全盛期のころ、産後には母乳が出て、母乳で育てるのが当たり前と思っていた私には考えられない現実が待っていた。

乳首が小さく、扁平乳頭である。当たりに授乳を開始することが出来なかった。母乳育児を推進するという産後管理方針の病院であった。今なら矛盾していると言えるが、ミルクは「お願いします」とスタッフに依頼する作業が必要であった。今だから笑い話で話せるが、ブドウ糖だけでは不足というのは、身をもって感じ、かといって、母乳が飲ませられない苦痛の上に、ナースステーションに依頼に行く元気もなく、試供品のミルクを飲ませた。

1日1回の乳房マッサージに備えて、担当者を朝からチェックした。「乳首がよくない」「吸い方が悪い」「頑張る」と言う先輩がいらしたが、その方のときは黙って笑顔でケアを受けた。何も話したくなかった。ちなみに、その先輩助産師は仙台市内にいらっしゃるが、いまだにお会いしたくない。ある勇敢な出産経験のある先輩は、夜勤のときご自分の乳首を含ませ、吸い付けることを実証なさったらしい。「吸い付けたわよ」「えっ！ 何それ！ どういうこと！ 私の子だよ」と思ったが、口には出来なかった。嫌な先輩の乳首に吸い付いた息子までうらめしく思ったものである。ごめんなさい。20年経ったから時効ですよ。助産師会に入会なさっていないことは存じ上げての手記ですが。

母乳を飲ませられないことは、それだけで本人がどれだけ傷ついているのか、わかってほしい。飲ませられるはずの母乳が飲ませられない心の苦痛を理解してほしい。優しい言葉がほしい。何もなくても母乳育児がうまくいく方は当たりに、うまくいかない方のフォローに力を注いでほしい。せめて、心を傷つけないでほしいと願う。

その中で、授乳ごとにそばにいらして、乳首を柔らかくして、乳房の緊満息子の頭を支えてくれた先輩助産師の手の暖かさを覚えている。20年間、息子の近況を年賀状でお伝えしている。

その後、授乳練習と搾乳を続け、乳房の緊満が落ち着いた産後1カ月頃、やっと乳首に吸い付いてくれたときの幸福感は忘れられない。自分の生命を分け与えている充実感である。恍惚とした幸福感はオ

キシトシンとプロラクチンが引き起こす身体の変化であろう。

退院後は、助産師学校で乳房管理学としてご教示頂いた地域でご活躍されている先生の手技を受けることにしたが、産後8週の産休を終え職場復帰の心身の変化と、新たに始まった育児と2倍になった家事との両立に戸惑い、通所をやめた。

産後1年を経て、3交代の勤務を2年終え、『育児・家事は女の仕事』と豪語する夫に反論することも出来ず故に両立できず、昼の仕事を選んだ。仙台市新生児訪問指導員、そして半年後に沐浴指導でもと思いから、助産院(出張専門)マミーズルーム田村の届けを出した。

その間、助産師学校の実習先として友人がお世話になった、皆様ご存知の前々宮城県支部長野窪助産所へお伺いし入会させて頂いた。あつかましくも1週間に1回は塩竈参りをさせて頂いた。両手を広げて「いらっしゃい」と迎えて下さる先生の力強い温かさに甘えさせて頂いた。仕事で対応して頂くときの野窪光子先生の厳しさは生半可ではなかった。多くの助産師たちの知るところである。そして、要所所に学校、病院では聴いたことがない、長い実績のある開業助産師生活から会得された未知の助産学を学ばせて頂いた。目からうろことはこのことを言うのかもしれない。

そして、3年後には第2子の出産でお世話になった。前期破水+微弱陣痛で3日間を要した。「病院に行きますか」「いいえ、行きません」という会話も覚えているが、全面的に助産師を信頼出来、女性の産む力に自信を持たせて下さった。

2. 助産院(出張専門)マミーズルーム田村としての16年間

沐浴指導くらいは出来るかなという思いで、助産師出張業務開始届けを平成2年8月に提出した。その間、諸先輩方のお力添えを得て、沐浴指導・授乳指導・そして20例ばかりの自宅出産のお手伝いをさせて頂いた。自宅出産の介助は平成10年前後である。下記は自宅出産をしていた時期に宮城県内の産科医療の中核といえるお医者様から頂いたアドバイスである。その頃はすでに分娩場所の集約化が構想されていたのだろう。

「仙台で仕事をするのなら、嘱託医をつけなさい」

「やめなさい」

「助産師に帝王切開が出来るのですか」

「子どもにまで余波がいきますよ」

「昔なら、いい助産師さんで流行っていたでしょうね」

そんな中、母校の恩師(産婦人科医長)のお口添えで、非常勤で勤めていた病院の産科医長に嘱託医をお願いすることが出来た。

たった20件の経験であるが、分娩遷延にて嘱託医に搬送(吸引分娩にて出産)、児の無呼吸(蘇生法で嘱託医のいる病院)その後嘱託医のお世話でNICUへ転送。今元気、弛緩出血(相互圧迫法で止血。その後嘱託医で治療)があり、分娩のリスクを考えさせられた。お医者さんの支援なしでは出来ないことと実感した。

その後、子どもたちの成長に伴う諸事情と、実家の後継問題、宮城県において頼もしい出張助産師が増えたこともあり、平成18年8月廃業届けを提出し現在の専門学校講師に至っている。余暇を活用して、思春期教育に迎えることも現在の楽しみである。

3. 故野窪光子先生の教訓

部分は筆者の体験と感想

嘱託医との関わり

- ・ 医師による健診(血液検査も同様)は嘱託医の先生のところで受け、カルテを作っておく。
- ・ 家庭分娩・助産院による出産が可能かの評価を医師と共に行う。
- ・ 緊急時の搬送先は嘱託医である。他の病院への搬送は嘱託医を介してお願いする。

- ・ 出産後 3 日目ころ、嘱託医師のところにお連れし、診察を受ける。
産婆時代の助産師たちは、このとき産婦に同行しお礼していたとお聞きした。
- ・ 嘱託医の緊急時の連絡は、「明日」ではない。夜間であろうとその時に行く。
- ・ 嘱託医への報告は異常時だけではなく、陣痛発来時と出産後もすぐ行く。

助産院での出産を望んだ私は、妊娠初期に助産院を訪れ予約し、健診は近くの開業の先生のところへ受け、28 週になって医師から助産院宛に紹介状を書いて頂き、助産院で健診を受けた。その後 36 週まで医師の健診、そして後助産院での健診へとつなげ出産に及んだ。

17 年前の助産院での出産をめぐる産婦側からの報告である。産科医療の集中化が行われている今、医師が助産師に紹介状を書いて下さるスタイルは、宮城県に存在するだろうか。

同じ頃、家庭分娩を扱っていた先生は、自らが行った健診は母子手帳に記載せず、健診は病院で受けさせていた。そして、分娩が始まるとご自分が介助し、母子手帳に記載していた。そのころ当該病院の非常勤職員であった私は当惑した。病院には予約が入っているのだ。ガスリー検査はご自分が懇意にしていられる開業の先生のところにお連れしたと伺った。病院の助産師たちは、「先生だから」と別枠で温かくみていたが、医師の立場からはどのように感じられていたのかと憂慮していた。また、今なら許されないルール違反である。

- ・ 「病院に行きますか」「いいえ」という会話。
私は破水後の陣痛のすさまじさに慣れるまでの間 1 回泣き出した。先生は長い経験から大丈夫という診断はしていたが、近くに産科の嘱託医の先生がおられ、そちらへの搬送も選択肢にあることを伝え、私の意志を確認させた。
- ・ お中元、お歳暮の意味
野窪先生は、おいくつになっても礼・節を欠かなかった。嘱託医のみならず、助産師会に研修にいらして下さった先生にも、盆、暮れのお中元、お歳暮を欠かさなかったように伺っている。その意味は、お陰さまで無事にお仕事をさせて頂きましたという、謙虚な姿勢と思われまふ。

出産編

- ・ 内診は最低限とする。「女性の大切なところです。大切にしましょう」
私が 3 日間の分娩までの期間で受けたのは、来所時の 1 回だけである。
ただし、私的に思いますに、医師はじめ複数の職員で対応する施設の場合は無理と思います。現状の申し送りが必要ですから。
- ・ お産の快感を覚えて下さい。出産後の快感ではありません。極期の間欠きに、心地よい体験が出来ます。自分の体と向かいあってみて。例えば悪いけど麻薬のような作用よ。
確かにありました。全身が開放され、フワッとした感じですよ。次の陣痛を心待ちしている自分がいました。
- ・ 分娩が切迫してくると、全身および恥丘が汗ばんでしっとりしてきます。全開大した証ですよ。
- ・ 女性には産む力が備わっています。心身をいたわりながら待つことです。
- ・ 親指と中指で丸い円を作りながら、「赤ちゃんの頭がこの位見えてくるまでは、見守るだけで何もしなくていいのよ」
- ・ 分娩第 1 期は近づき過ぎず、遠から過ぎずの距離を保つ。これは産婦の産む力を引き出すことにつながる。
- ・ おいしい食事。
- ・ 出産体位は、フリースタイルで経過。出産間近で仰臥位へ。
4~5 回の怒責を仰臥位で逃すことは苦痛ではない。仰臥位になることで、しっかりと会陰保護をしてもらえる安心感がある。というか、産婦にとってはどっちでもいいこと。
分娩台がない家庭分娩なら、フリースタイルでよいだろう。第 1 期から第 2 期後半までの時期

は産婦にとってフリースタイルが楽である。但し、何がおこるかわからない娩出期は、仰臥位で苦痛はないのだから、スタッフにとって楽な体勢、異常に対応し易い体位でよいと考える。

- ・ 会陰切開・裂傷、つまり会陰縫合がないことは、産後の動線の苦痛が極めて少ない。
とは申しまして、母子の安全があつてのことである。
また、産後の女性の多くは、「でも、あの助産師さんは一生懸命やってくれた」「陣痛で苦しいとき、腰をマッサージしてくれた」「やさしかった」と話される。会陰切開・裂傷の傷より、つらいとき寄り沿ってくれる方が嬉しいのである。一生覚えている。
- ・ 昔は出産のとき、羽織・袴で助産院にいらした。

産後編

- ・ 上の子が気になり、産後3日目に退院した。7日目に家庭訪問して下さった。もちろん無料である。反対に『出産祝い』を頂戴した。
産後に上の子とともに、赤ちゃんを連れて健診に産院に行く労力は大変である。家庭訪問で指導をして頂けるならこれ以上のことはない。後日助産師学校の講義の帰りだったと伺った。
- ・ 出産の翌日にお祝いにきてくれた友人に、「産後の安静が必要だから」と玄関でお帰り頂いている。後日友人から聞いた。産後の安静についての認識を新たにしてほしい。産婆時代を知る助産師たちは、産後1カ月間はお祝いの方も遠慮するよう指導していたと伺った。
- ・ 出産後のぶどう酒がおいしかった。
- ・ 食事がおいしかった。

母乳育児編

- ・ 産後、6割の女性はほっておいても母乳が飲ませられる。残る4割を救うのが助産師の役割である。
- ・ 育児不安の強い人は、母乳育児がうまくいかない人である。
エジンバラ産後うつチェックをしている方は、母乳育児の成功率と心の関係を調査してみて下さい。11年間の新生児訪問指導の経験から、また自分の体験からはその通りだと思います。
来所された方にはケアが終わるとおいしい日本茶と手作りのお料理でもてなして下さい。そのお料理の中心は、鯛・たら・カレイ等白身魚の煮付け、季節野菜のお煮付け、しじみ汁、レモンたっぷりの浅漬け、季節の苺、メロン、桃など美しく盛り付けして下さい。素材がよく、だしがさりげなく効いており、熱の加え方がすばらしい日本食中心のバランスの良い食事である。体にスーッと吸収され、おだやかな力がみなぎる感じであった。
- ・ 産後食べてはいけない食べ物はないですよ。ただバランスの問題です。
「唐辛子をかけないとご飯が食べられないというお母さんに何と答えますか」
「食べないより食べた方がいいですよ」
- ・ 乳房ケアの手技は、病院(記載のご許可を頂いていない)の看護部長が第一任者である。
- ・ 乳房のケアは、手をブラブラさせてリラックスさせてから、行う。

育児編

- ・ ひとりひとりの赤ちゃんに声をかける。それは産婦の姿が見えなくても、自然にされていることが望ましい。産婦はどのように対応しているか、聞き耳を立てているものだ。
- ・ 沐浴等、赤ちゃんの扱いはこの上なく優しく接する。
その姿を見ている親は安心し、すべてを任せられる。

家族編

- ・ いっしょに来所した産婦の夫に、産婦のいいところを見つけて伝える。
「熱心な方ですね」
「なんでも一生懸命してらっしゃる」
「かわいい赤ちゃんを産んでくれますよ」
しかし、その反対、夫のいいところを妻に伝える作業はほどほどに。

- ・産後7日目に家庭訪問して下さったとき、『出産祝い』を頂戴した。お世話になり、その上にお祝いを頂けることは、病院では考えられない嬉しさでした。
お料理好きの夫は、先生の台所まで入らせて頂き、お料理をさせて頂いたようだ。夫は特技をほめられ嬉しかったようだ。私には内緒で先生のところに何度か伺っている。他にもいらっしやいましたよ。このような形で父親育てもして下さった。我が家の夫以外にも訪問させて頂いていた。男性からも信頼される助産師でした。
- ・息子が高校入学、娘が中学入学の折、ご祝儀をさりげなく包んで下さった。
子どもの成長を共に喜んで下さる姿に、親としての責任感を強くしたことを思い出す。また、家族を丸ごと支援する姿に開業助産師魂を改めて感じる。

4. まとめ

開業助産師と嘱託医の間には、その力量と人柄を知りえた信頼関係があろう。過去は、分娩を医師にお願いすると喜ばれ、いつでもどこでも開業助産師が病院に担ぎ込めば、お引き受け下さったと多くの産婆時代を知る助産師は語る。しかし、そういう時代は過去の話である。医師たちが多くのリスクを抱え、出来るなら他者の問題は抱え込みたくないとの姿勢も理解出来る。今の時代に開業助産師の世話をしても医師にとっては何のメリットもないだろう。

過去の『産婆魂』は、多産時代の話である。医師たちに支えてくれる基盤があったからである。

現在の少産少死化の時代、嘱託医を引き受けて下さるお医者さんにどのように感謝の思いを伝えていけばよいか、益々考えていかなければならないだろう。

今回の医療法19条の法改正により、施設を有し分娩を扱う助産院の嘱託医は産婦人科医、また、連携病院を明確にするように制定された。反面、施設分娩よりリスクが高い家庭分娩は対象外である。嘱託医は要らないと豪語していらっしやる開業助産師の話も聞く。しかし、お産はいつどのように急変するかわからない。自然ではない。そのときどちらの先生にお世話になるのか。救急車に乗せればお引き受け頂ける時代ではないことは承知の事実である。団体の役職を引き受けている以上、『自分のことで精一杯』は通用しない。団体に属している限り、ひとりの規則外の行動は全体に波及する。開業部長・安全対策委員長を中心に、指導体制を強固にしていかなければならないだろう。

6. 最後に

この原稿を書き始めてからやたら肩が凝った。故野窪光子先生から「軽はずみな原稿を書かないでね」と、目の前で厳しくご叱責頂いている気がした。肩凝りがとれ、先生のご許可が得られたことと思いついて書かせて頂いた。今回の手記を元に、故野窪光子先生と接点があった助産師たちがこの手記に厚みを加えて下さることを願っている。

晩年、故野窪光子先生は勤務助産師の入会に尽力なされた。ご自分が培った知識・技術を、3部門を越えて伝承していきたいという心意気が今なら理解出来る。そしてそれは今に生かされている。また、故野窪光子先生のお旅立ちの前の看護をひたむきにして下さった病院の助産師が、日本助産師会宮城県支部の役員として、ご尽力頂けることになったこともここにご報告する。

最後になるが、宮城県支部書記として書類整理をさせて頂き7年目にして感じることを書かせて頂く。助産師会のアピールポイントは、開業できる性教育(思春期教育)ができる自立した助産師活動が出来ることと思われる。そのためには、団体としての組織力が欠かせない。支部長を中心とした団体としての統率力を向上させて参りたいものである。

6. こんにちは 助産院さん



「はい、出張助産師 高津真理子です。」

一口に助産師という職業でも、いろいろな活動の仕方があります。人の命、その人、その人の得意分野、興味をもつ分野というのもあると思います。病院の交代勤務時代、夜中にひとりで産婦さんに付き添ったり、難産の末無事元気な赤ちゃんが産まれた充実感ももちろん好きでしたが、それ以上に授乳指導が好きでした。少しの間でも、お母さんと赤ちゃんの授乳の様子をみたり、マッサージさせてもらったり、そこに喜びを感じました。

しかし、病院勤務で、5~6月の入院期間では、母子にゆとりあつていえることができません。風になる人も退院してしまえば、日々の仕事に追われ、その後のつらさを知る由もありませんでした。

やがて自分も親となり、もっとゆとり、その家庭での様子に合わせた育児の手助けがしたい、ということになり、平成12年開業届を出しました。出張時間ということになり、準備したのは携帯電話とお知らせのチラシだけ。家にあつたバイクと夫と共用の車だけでした。その後、自分用の軽自動車もち、少し遠くまで行ける様にもなりましたが……

仕事のスタイルは、母乳育児のお手伝いの他、産後の家事援助や助産師として必要とされる仕事であれば、その方の希望に添った形でやっています。市委託の新生児訪問もあわせてやっています。やはり孤独な中で、心細い思いをしながら育児をしている人が多くいます。そのたびに、近くにいるちょっと相談できる、ちょっと顔を見に来てもらえる、そういうサポートの必要性を強く感じます。

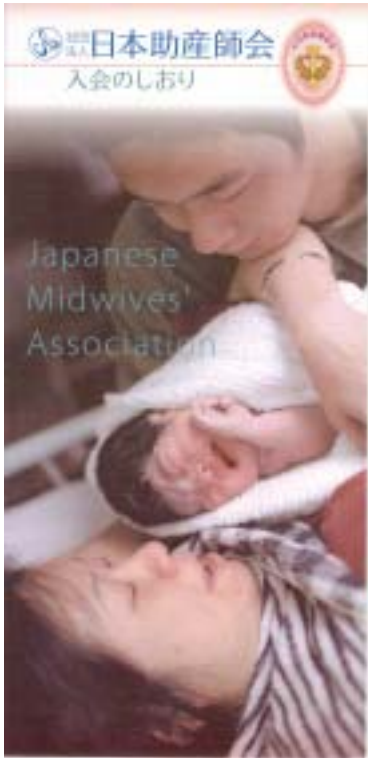
子育てで心配な時、ちょっと相談してみようと思いを思い出してもらえ、そんな仕事をしたいと日々思いながらやっています。

出張助産師、高津真理子

塩釜市袖野田町 30-20

TEL 090-9530-5801

お知らせ



助産師会の入会のしおりが新しくなりました。ご入用の方は、書記長までご連絡下さい。

あなたのそばに助産師がいます
みやぎ子育て・女性健康支援センター

◆無料電話相談⇒妊娠・出産・育児・思春期…
 ◆講 義 系 講座⇒育児・子育て…

◆**年会員募集中**

月・水曜日 金曜日 第4日曜日
 10:00~16:00 13:00~19:00 10:00~12:00
 ☎・FAX 022-297-1551
 〒982-0815 仙台市宮城野区福ヶ岡5番地 みやぎNPOプラザ内

助産師会宮城県支部会員のボランティアメンバーで開設しています。ご支援頂ける方を募集中です。特にパソコン処理が出来る方が嬉しいです。
 事務局



開業助産師マップです。ぜひ、ご支援下さい。広報下さる方は、各助産師にご連絡を。

7. お知らせ

1. お名前の公開について

支部総会提出議題(4)が承認され、次回の機関紙にて会員名簿の一部を公開します。内容は、地区名・3部門別・お名前です。なお、名簿の公開を希望の方は、支部総会提出議題(4)が承認されたことに伴い、書面に事由を明確に記載し、支部長に閲覧を申し込み下さい。

2. 会費等の振込み先について

新役員体勢に伴い、入会に伴う振込み先が変更になります。本部会館寄付金の振込み先も変更になりますので、ご周知下さい。平成19年3月31日以前の振込み用紙は使用出来ません。破棄して下さい。新振り込み先は、左記の通りです。

3. 変更届けの提出について

ご住所、氏名、勤務先等の変更は「助産師」巻末の『変更届け』にて本部と支部にお届け下さい。転居先が不明で、書類が返送されています。また、3人分の会員証もお届けできずに会でお預かりしています。会務が煩雑になります。

また、支部役員はボランティアで運営されていますので、会務に費やす時間と労力の省略化にご協力頂ける様お願い致します。

4. 入会届け一式の扱いについて

本部住所変更・宮城県支部長の変更に伴い、既存の入会届け一式は破棄して下さい。新入会届け一式は書記までご連絡下さい。

田村雪子 090-2982-7235 FAX022-257-7610



編集後記.....

ネット・メール・携帯電話・テレビ・新聞 このような情報化社会に、団体としての機関紙のあり方を考えた。迅速に、かつ正確な情報提供が望まれるであろう。しかし、年3回の発行では迅速とはいかない。考えるに宮城の助産師として地域に密着した、人柄が見える情報誌であればよいのか。また過渡期ともいえる助産師の専門性を考え、未来に向かう姿勢が大切であろう。

何かと行き届かないことがあると思いますが、ボランティア精神に免じてお許し頂き、多くの方々に原稿の投稿をお願いし編集後記と致します。

発行 社団法人日本助産師会宮城県支部

〒981-0911 仙台市青葉区台原 5-12-14

支部長 新田 みつ子

電話 FAX 022-272-6578

支部便り担当 田村 雪子 松田美由紀

問い合わせや投稿は、090-2982-7235 田村雪子までお願いします。